

胃 集 団 検 診 （ 地 域 ）

動 向

平成18年度住民対象の胃がん検診の受診者数は、18,018名で前年比704名の減少となった。減少した大きな要因は、1町が弊会で実施しなくなった事と全体的な受診減があったためである。

県の集計によれば、地域の胃検診の対象人口は約90万人であり現行のカバー率は約7%前後であることを考えると一層の受診率向上が必要である。

受診者数を増加させるためには初診者の掘り起こしが必要であるが、近年受診者の初診率は低迷しており、今後各市町村とも初診者増加対策を練る必要があると思われる。

又、現在がん検診は市町村の単独事業として実施されているが、胃がん検診の有効性は厚生省の研究班により証明されており、住民サービスの低下の無いよう今後益々の受診率向上が望まれる。

一方、協会では神奈川県消化器集団検診機関一次検診連絡協議会の事務局を前年度に引き続き担当し、会の運営に協力している。

方 法

平成18年度は胃検診車9台で対応してきた。撮影方法は前壁二重造影像を取り入れた撮影法で行い、造影剤も高濃度造影剤を採用し、より情報量の多い画像の提供が可能になっている。特に近年デジタル化への移行が始まっており18年度は5台のデジタル装置搭載の検診車が稼動した。

今後更に情報量の多い診断能の高いX線写真の提供に努力していきたい。

地域検診における受診傾向は高齢化と体の不自由な方の受診が多くなった。また、便秘への不安もあり高濃度化には不安があったがバリウムメーカーの努力により高濃度化による便秘はほぼ解消されたが、水分摂取が無ければ便秘するので必ず検査終了後は水分を十分とるよう通知している。

最近の受診者傾向としては通院治療中の受診者の増加がある。特に造影剤飲用或いは検査時のリスクの高い受診者の増加は受診後のトラブルにもつながる傾向があり、自立歩行困難や高血圧治療中或いは

パーキンソン病で治療中の方の受診時誤嚥が発生しているので緊急時対応可能な病院での検査を勧めていきたい。撮影枚数はアナログ・デジタル共に7枚法で実施しているが近い将来には8枚撮影法の導入も検討しており、より情報量の多い画像提供に努力をしていく。

精密検査が必要な人は地元医師会で直接X線検査や内視鏡検査が実施される。その結果は医師会・行政・協会も参加して1次スクリーニングの写真や精密検査の資料が持ち寄られカンファレンスが行われている。

結 果

地域検診では表に示すように18市町村で実施された。1次検診の結果、精密検査が必要な人は男性1,207人、女性1,473人、男女合計は2,680人、14.9%と職域に比較すると高いが近年、職域同様減少傾向を示す。男女別では男16.0%、女14.1%である。精密検査を受診した人は1,859人69.4%と低調である。ここから発見された癌は、報告された人のみではあるが胃がん確定25人、その他確定診断は胃ポリープ及びポリーポジスは589人、胃潰瘍及びその癒痕は148人である。同様に十二指腸潰瘍及びその癒痕は37人である。

各市町村別には表に示すように18市町村で実施され、未受診者対策は協会では把握できない部分でもあるが、未受診者には何らかの方法で受診勧奨が必要であり、要精密検査の指示がでたら必ず受診してほしい。

関係の集計表は75頁に掲載